



グループホームかわばた荘開設以来初めてのボランティアで、近所の寿司屋「鮎たくみ」さんと川辺町にお店がある「浅五郎の小田巻や鈴木酒店」さんがそれぞれ振る舞ってくださいました。

お腹いっぱいでもう食べられない方続出！ 鮎たくみさん

鮎たくみさんは入居者の方にも人気で、お誕生日にお店へ食事に出かけられる方もあります。以前にサンシャイン美濃白川でごちそうしてくださいましたことがある店主の高羽さんから提案があり、かわばた荘でも出張お寿司屋さんが実現しました。



▲思わず箸がすすみます

さんが来たこの日はみなさんいつも以上にさわさわさわ落ちて着かない様子でした。最初はお寿司に緊張して遠慮がちの様子

お寿司屋さん 小田巻やさんがやって来た！

でしたが、あまりのおいしさにペロリとたいらげてお代わりを注文される方が続出。この日は特別ゲストとして二人のちびっこ従業員がお手伝いに参加して、みなさんから注文をとったり寿司を運んだりと奮闘してくれました。



▲ごちそうに笑顔いっぱいです

「こんな目の前で握ってもらえて幸せやなあ」「本当はもう少し食べたいけど食べすぎやよねえ」と終始楽しい昼食となりました。

今も昔も変わらず愛される おやつ小田巻の焼きたてを堪能！ 浅五郎の小田巻や鈴木酒店さん

鈴木酒店さんは店内で小田巻を焼いておられ、いつも売り切れ必至の小田巻屋さんです。

きっかけは「小田巻を施設内で楽し

んでみませんか」という一枚の葉書でした。それによると、近隣の施設等に出張して焼きたての小田巻を提供されているとの事。目の前で焼いてもらった小田巻をおやつにしたら昔を懐かしんで楽しい時間になるのではと思ってお越しいただくことにしました。

当日は天気が良く、かわばた荘の駐車場に屋台を設置しておやつタイムを楽しみました。

目の前で焼かれていく小田巻を見て「ええなあ。昔は家でも焼いとったなあ」と思い出話をしながら待つこと数分。ふわりと甘い香りがしてきてたつぷりのあんこが入った小田巻が完成しました。

最初 は遠慮して小田巻に手をつけなかった入居者のみなさんも「焼きたてをどうぞ」と言われると「いいかね」「おいしい。まったくおいしいわ」とあつという間に食べてしまわれました。



▲焼きたてに舌つづみ

これからかわばた荘では入居者のみなさんに楽しんでいただけるよう、新しい取り組みをしていきたいです。



車に乗ると「どこへ行くの？」と弾んだ声が聞こえます。「お茶摘みに行くよ」と答えると、すぐに「夏も近づくと歌が出ました。みなさん一緒に歌いながら広島地区まで向かい

▼青空の下で茶摘み



ました。地域の方のご厚意でたくさんお茶を摘むことができました。ご夫婦で参加された方もあり、仲睦まじい様子が見られました。

摘んだお茶は施設に持ち帰り、ホットプレートで炒って手揉みを行います。

た。さすがは昔取った杵柄。みなさん慣れた手つきで次々と揉みあげていきます。陰干しをしたお茶は湯船に入れ、お茶風呂を楽しみました。浴室には新茶の良い香りが漂っていました。



▲茶揉みで話がはずみます